

あ い さ つ

京都府高等学校体育連盟

会 長 村 上 昌 司

(京都府立西城陽高等学校長)

令和4年度 京都府高等学校体育連盟「高体連誌第62号」の発行にあたり、ごあいさつ申し上げます。

長引くコロナ禍の影響を心配した一年ではありましたが、3年振りに開催できた京都府高等学校総合体育大会をはじめ、本連盟の各種事業を中止や延期することなく、ほぼ以前に近い形で全国高等学校総合体育大会（夏季大会）や関連する府予選等を開催することができました。これもひとえに、加盟校・各専門部、並びに各競技団体をはじめ関係諸機関の皆様方のお陰であり、感染防止対策をはじめとする安心安全な大会の運営に、一方ならぬ御尽力を賜りましたことに誌面をおかりして心から感謝申し上げます。

夏季の全国高校総体をはじめ全国定時制通信制大会やその他の全国大会では、日々たゆまぬ努力を重ねてきた選手たちが、京都府の代表選手として大活躍をしてくれました。団体では、洛南高校陸上競技部（男子）、京都精華学園高校バスケットボール部（女子）、東山高校バレーボール部（男子）、北桑田高校自転車競技部ロード（男子）の優勝を含む30の入賞、また個人では陸上競技、レスリング、自転車競技、ウェイトリフティング、フェンシングから18種目の優勝を含む90の入賞を果たすなど、連日熱戦を繰り広げてくれました。さらに、冬季の全国高校総体である駅伝やラグビー、スケート、スキーをはじめ、年末年始に開催された全国高等学校選抜大会や選手権大会等においても、京都精華学園高校バスケットボール部（女子）、龍谷大学付属平安高校フェンシング部（女子）、南陽高校なぎなた部（女子）の優勝など、本連盟加盟校の生徒達の活躍を大いに実感できた1年となりました。

改めまして、コロナ禍による様々な活動制限の中、競技力向上に向けて御尽力いただきました各競技専門部や各顧問の先生方の御指導と情熱に対し、深く感謝申し上げます。

国から「学校部活動及び新しい地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（令和4年12月27日）が示されるなど、高等学校の運動部活動においても、学校における働き方改革や生徒数の減少、体罰、事故防止などの課題解決に向けて大きな転換期を迎えています。本連盟といたしましても、引き続き学校教育の一環として行われる運動部活動を通して、一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、個性を磨き創造性を伸ばし、本府の高校生が安心安全で充実したスポーツライフを送れるように、加盟校、各競技専門部や各顧問の先生方のお力添えをいただきながら、関係者一同、力を合わせて取り組んでまいり所存です。

結びにあたりまして、一日でも早いコロナ禍の終息を願いつつ、各団体、関係機関の皆様方には、今後とも本連盟への温かい御支援と御協力を賜りますことをお願い申し上げまして、発行のごあいさつとさせていただきます。